

平成15事業年度

連結行政コスト計算書

(添付書類)

- ・民間企業仮定連結貸借対照表
- ・民間企業仮定連結損益計算書
- ・連結キャッシュ・フロー計算書
- ・民間企業仮定連結剰余金計算書
- ・連結附属明細書(別冊)

阪神高速道路公団

連結行政コスト計算書

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

阪神高速道路公団

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 | |
|-------------------------|-----------------|-----------------------|
| 営業費用 | | |
| 民間企業仮定連結損益計算書上の費用 | | |
| 道路管理費 | 35,008,364,133 | |
| 保守・点検等その他業務原価 | 303,580,770 | |
| 道路資産減価償却費 | 91,477,385,820 | |
| その他の営業費用 | 9,204,775,564 | |
| 営業外費用 | 78,657,376,433 | 214,651,482,720 |
| (控除)営業収益 | | |
| 道路料金収入 | 175,752,133,975 | |
| 保守・点検等その他業務収入 | 1,101,978,698 | |
| 営業外収益 | 369,912,934 | 177,224,025,607 |
| 特別利益 | | |
| 前期損益修正益 | 3,714,334,099 | 3,714,334,099 |
| 少数株主損益 | | |
| 法人税、住民税及び事業税(注) | 128,456,991 | |
| 法人税等調整額 | 182,105,127 | |
| 少数株主損失 | 318,052,973 | 371,701,109 |
| 営業費用合計 | | 33,341,421,905 |
| 機会費用 | | |
| 国有財産等の無償使用の機会費用 | 43,578,688 | |
| 政府出資等の機会費用 | 7,924,070,000 | |
| 低利借入金による機会費用 | 935,802,007 | |
| 公務員からの出向職員に係る退職給付引当金増加額 | 26,575,400 | |
| 機会費用合計 | | 8,930,026,095 |
| 行政コスト | | 42,271,448,000 |

(注)連結子会社が納付した法人税、住民税及び事業税である。

民間企業仮定連結貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

阪神高速道路公団

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 | |
|---------------|-------------------|-------------------|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | | 24,849,618,559 |
| 売掛金 | | 442,564,329 |
| 有価証券 | | 153,096,724 |
| たな卸資産 | | 231,174,696 |
| 繰延税金資産 | | 209,058,893 |
| 前払費用 | | 29,172,057 |
| 未収収益 | | 8,417,680 |
| 未収金 | | 6,005,412,262 |
| その他 | | 130,643,899 |
| 貸倒引当金 | | 83,452,515 |
| 流動資産合計 | | 31,975,706,584 |
| 固定資産 | | |
| 道路事業固定資産(*1) | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 43,336,618,454 | |
| 減価償却累計額 | 12,260,507,720 | 31,076,110,734 |
| 構築物 | 3,736,758,684,393 | |
| 減価償却累計額 | 1,119,383,183,254 | 2,617,375,501,139 |
| 機械及び装置 | 147,477,052,696 | |
| 減価償却累計額 | 75,078,751,974 | 72,398,300,722 |
| 車両及び運搬具 | 538,048,766 | |
| 減価償却累計額 | 291,976,438 | 246,072,328 |
| 工具・器具及び備品 | 568,086,383 | |
| 減価償却累計額 | 362,121,328 | 205,965,055 |
| 土地 | | 719,429,788,469 |
| 道路建設仮勘定 | | 459,910,361,031 |
| 道路事業有形固定資産合計 | | 3,900,642,099,478 |
| 無形固定資産 | | |
| 地上権 | | 28,157,733,130 |
| 道路事業固定資産合計 | | 3,928,799,832,608 |
| その他の固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 4,651,793,872 | |
| 減価償却累計額 | 1,116,076,364 | 3,535,717,508 |
| 構築物 | 145,436,757 | |
| 減価償却累計額 | 39,843,462 | 105,593,295 |
| 車両及び運搬具 | 117,126,374 | |
| 減価償却累計額 | 83,823,406 | 33,302,968 |
| 工具・器具及び備品 | 284,163,704 | |
| 減価償却累計額 | 190,890,534 | 93,273,170 |
| 土地 | | 2,443,812,000 |
| 有形固定資産合計 | | 6,211,698,941 |
| 無形固定資産 | | |
| 電話加入権 | | 27,865,424 |
| ソフトウェア | | 449,855,534 |
| その他 | | 4,311,022 |
| 無形固定資産合計 | | 482,031,980 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | | 786,467,179 |
| 関係会社株式 | | 17,400,000 |
| 出資金 | | 28,337,222 |
| 地方公共団体貸付金 | | 106,047,200 |
| 敷金・保証金 | | 391,235,450 |
| 積立保険料 | | 512,262,553 |
| 繰延税金資産 | | 238,982,341 |
| その他 | | 79,463,022 |
| 貸倒引当金 | | 22,585,000 |
| 投資その他の資産合計 | | 2,137,609,967 |
| その他の固定資産合計 | | 8,831,340,888 |
| 固定資産合計 | | 3,937,631,173,496 |
| 繰延資産 | | |
| 債券発行差金 | | 3,061,423,923 |
| 債券発行費 | | 748,941,723 |
| 繰延資産合計 | | 3,810,365,646 |
| 資産合計 | | 3,973,417,245,726 |

| 科 目 | 金 額 |
|--------------------|-------------------|
| (負債の部) | |
| 流動負債 | |
| 買掛金 | 58,854,891 |
| 短期借入金 | 300,000,000 |
| 一年以内に償還予定の阪神高速道路債券 | 269,410,000,000 |
| 一年以内に返済予定の長期借入金 | 66,224,740,000 |
| 未払金 | 20,280,578,839 |
| 未払費用 | 16,086,418,356 |
| 未払法人税等 | 86,468,000 |
| 賞与引当金 | 1,212,080,112 |
| プリペイドカード等仮受金 | 1,421,892,310 |
| 受託業務仮受金 | 695,248,299 |
| 預り金 | 169,380,812 |
| 繰延税金負債 | 2,350,580 |
| その他 | 4,152,234 |
| 流動負債合計 | 375,952,164,433 |
| 固定負債 | |
| 阪神高速道路債券 | 1,927,680,000,000 |
| 長期借入金 | 1,560,353,158,672 |
| 退職給付引当金 | 16,868,875,755 |
| 役員退職慰労引当金 | 122,073,000 |
| 固定負債合計 | 3,505,024,107,427 |
| 負債合計 | 3,880,976,271,860 |
| (少数株主持分) | |
| 少数株主持分 | 5,335,584,065 |
| (資本の部) | |
| 資本金 | 552,200,000,000 |
| 利益剰余金 | 666,123,780,069 |
| 資産再評価差額金 | 201,029,169,870 |
| 資本合計(*2) | 87,105,389,801 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 3,973,417,245,726 |

民間企業仮定連結損益計算書

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

阪神高速道路公団

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 | |
|-------------------|-----------------|-----------------|
| (経常損益の部) | | |
| 営業損益の部 | | |
| 営業収益 | | |
| 道路料金収入 | 175,752,133,975 | |
| 保守・点検等その他業務収入 | 1,101,978,698 | |
| 営業収益合計 | | 176,854,112,673 |
| 営業費用 | | |
| 道路管理費 | 35,008,364,133 | |
| 保守・点検等その他業務原価 | 303,580,770 | |
| 道路資産減価償却費 | 91,477,385,820 | |
| その他の営業費用(*1) | 9,204,775,564 | |
| 営業費用合計 | | 135,994,106,287 |
| 営業利益 | | 40,860,006,386 |
| 営業外損益の部 | | |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 21,739,090 | |
| 受取配当金 | 3,907,264 | |
| その他の営業外収益 | 344,266,580 | |
| 営業外収益合計 | | 369,912,934 |
| 営業外費用 | | |
| 債券利息 | 56,170,276,023 | |
| 借入金利息 | 21,152,325,483 | |
| 債券発行差金償却 | 695,739,788 | |
| 債券発行費償却 | 378,420,577 | |
| その他の営業外費用 | 260,614,562 | |
| 営業外費用合計 | | 78,657,376,433 |
| 経常損失 | | 37,427,457,113 |
| (特別損益の部) | | |
| 特別利益 | | |
| 前期損益修正益 | 3,714,334,099 | 3,714,334,099 |
| 税金等調整前当期損失 | | 33,713,123,014 |
| 法人税、住民税及び事業税(注) | | 128,456,991 |
| 法人税等調整額 | | 182,105,127 |
| 少数株主損失 | | 318,052,973 |
| 当期損失 | | 33,341,421,905 |

(注)連結子会社が納付した法人税、住民税及び事業税である。

連結キャッシュ・フロー計算書
(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

(単位:円)

| | |
|----------------------------|------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | |
| 税金等調整前当期損失 | 33,713,123,014 |
| 道路事業固定資産減価償却費 | 91,477,385,820 |
| その他の固定資産減価償却費 | 212,443,599 |
| 債券発行費償却 | 378,420,577 |
| 債券発行差金償却 | 695,739,788 |
| 貸倒引当金の減少額 | 12,038,425 |
| 賞与引当金の増加額 | 337,715,395 |
| 退職給付引当金の増加額 | 235,941,679 |
| 役員退職慰労引当金の増加額 | 44,073,000 |
| 受取利息及び配当金 | 25,646,354 |
| 債券利息 | 56,170,276,023 |
| 借入金利息 | 21,152,325,483 |
| 道路事業固定資産除却損 | 1,123,425,672 |
| その他の営業外収益 | 38,384,347 |
| その他の営業外費用 | 177,632,538 |
| 売上債権の増加額 | 184,662,246 |
| 棚卸資産の減少額 | 84,074,339 |
| 仕入債務の減少額 | 143,138,415 |
| 未収金(事業資産除く)の増加額 | 4,025,084,614 |
| 未払金(事業資産除く)の増加額 | 2,351,082,523 |
| その他の資産の減少額 | 122,493,882 |
| その他の負債の増加額 | 909,367,010 |
| 小計 | 137,330,319,913 |
| 利息及び配当金の受取額 | 23,187,020 |
| 債券利息の支払額 | 60,370,313,930 |
| 借入金利息の支払額 | 20,667,641,672 |
| 法人税等の支払額 | 123,433,909 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 56,192,117,422 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 道路事業固定資産の取得による支出 | 113,934,847,197 |
| 道路事業固定資産の売却による収入 | 95,120,429 |
| その他の固定資産の取得による支出 | 389,391,042 |
| その他の固定資産の売却による収入 | 40,278,269 |
| 定期預金の預入による支出 | 330,000,000 |
| 定期預金の払戻による収入 | 360,000,000 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 503,687,890 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 354,495,473 |
| その他 | 382,250,099 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 114,690,282,057 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 短期借入金の純増減 | 267,737,641 |
| 長期借入による収入 | 55,356,000,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | 26,625,682,326 |
| 債券の発行による収入 | 412,648,899,671 |
| 債券の償還による支出 | 419,890,000,000 |
| 債券償還手数料 | 34,175,585 |
| 政府出資金の受入れによる収入 | 12,900,000,000 |
| 地方公共団体出資金の受入れによる収入 | 12,900,000,000 |
| 少数株主への配当金の支払額 | 3,641,600 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 46,983,662,519 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | - |
| 現金及び現金同等物の減少額 | 11,514,502,116 |
| 現金及び現金同等物期首残高 | 36,024,220,197 |
| 連結子会社の合併に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 155,108,911 |
| 連結子会社の範囲変更による現金及び現金同等物の減少額 | 372,035,153 |
| 現金及び現金同等物期末残高 | 24,292,791,839 |

民間企業仮定連結剰余金計算書

(平成16年3月31日)

阪神高速道路公団

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 |
|------------------------|-----------------|
| 利益剰余金期首残高 | 658,676,391,541 |
| 利益剰余金増加高 | |
| 資産評価方法の見直し等による調整額 (*1) | 16,599,126,667 |
| 資産再評価差額金取崩額 | 9,294,906,710 |
| 利益剰余金減少高 | |
| 当期損失 | 33,341,421,905 |
| 利益剰余金期末残高 | 666,123,780,069 |

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

子会社は全て連結している。

連結子会社の名称は、以下のとおりである。

| | |
|-------------|-----------|
| (株)エイチエイチエス | (株)高速道路開発 |
| (株)コーベックス | (株)サナウイン |
| (株)ベイフレンド | (株)技創 |

2. 持分法の適用に関する事項

関連会社は以下の4社であり、全て持分法を適用している。

| | |
|-----------|------------|
| (株)グローウェイ | エスト管理(株) |
| (株)工研 | (株)ハイウェイ技研 |

但し、10社ともに当公団からの直接出資はなく、持分比率はゼロである。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致している。

4. 重要な資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

・満期保有目的の債券 - 償却原価法(定額法)によっている。

・その他有価証券

時価のあるもの - 決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定している)によっている。

時価のないもの - 主として総平均法による原価法によっている。

(2) たな卸資産

主として先入先出法による原価法によっている。

5. 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

(道路事業固定資産)

定額法によっている。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっている。

(追加情報)

道路事業固定資産の一部について、資産区分を精緻に見直したことに伴い耐用年数を変更している。主な資産の内訳は以下のとおりである。この結果、従来の方法に比較して、利益剰余金が11,240百万円増加している。

| 資産区分名 | 旧耐用年数 | 新耐用年数 | |
|---------------|-------|-------|---|
| 料金所ブース | 20年 | 45年 | |
| ETC路側装置 | 9年 | 17年 | |
| 軸重計測装置 | 9年 | 17年 | |
| PA用建物(SRC・RC) | 50年 | 39年 | 等 |

(その他の固定資産)

当公団は定額法、連結子会社は定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備は除く)は定額法)によっている。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっている。

(2) 無形固定資産

定額法によっている。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっている。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっている。

6. 繰延資産の処理方法

(1) 債券発行差金

債券償還期間(5年又は10年)にわたり均等償却している。

(2) 債券発行費

商法施行規則に規定する最長期間(3年)で均等償却している。

7. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率に基づき、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

(2) 賞与引当金

役職員(連結子会社は従業員のみ)に対する賞与の支給に備えて、支給見込額のうち当期負担額を計上している。

(3) 退職給付引当金

役職員(連結子会社は従業員のみ)の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。

なお、連結子会社においては、退職給付債務の見込額は簡便法(退職給付に係る期末自己都合要支給額から、中小企業退職金共済制度より支給される金額を控除した額を退職給付債務とする方法)を採用している。

また、過去勤務債務は、その発生時に一括費用処理することとしている。

なお数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしている。

(4) 役員退職慰労引当金

連結子会社は、役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

8. 収益及び費用の計上基準

道路料金収入の計上基準

道路料金収入については、利用時に収入に計上している。但し、回数券については、販売時に収入に計上している。

(会計処理方法の変更)

道路料金収入のうちハイウェイカード及びETCについては、従来、契約に基づいて請求する日(利用月の翌月)をもって収入に計上していたが、財政状態及び経営成績をより適切に表示するため、本年度から利用した日をもって収入に計上することとした。

そのため、当連結会計年度は、当該会計処理の変更に伴う移行期となり、13ヶ月の収益計上となっている。この変更により、平成16年3月分の料金収入4,369百万円は、道路料金収入に、過年度相当分である平成15年3月分の料金収入3,714百万円については、前期損益修正益として特別利益に計上している。この結果、従来と同一の方法を採用した場合と比べ、道路料金収入は654百万円増加し、当期損失は4,369百万円減少している。

9. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項

全面時価評価法を採用している。

10. 連結調整勘定の償却に関する事項

連結調整勘定は、発生時全額償却している。

11. 利益処分項目等の取扱いに関する事項

連結会計年度中に確定した利益処分に基づいて作成している。

12. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっている。

13. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっている。

(2) 支払利息の道路事業固定資産への算入

道路資産の建設に要する借入資本の利子で供用前の期間に属するものは、これを取得原価に算入している。但し土地の取得に係る借入資本の利子は発生した期間の費用としている。なお、期末の道路事業固定資産に含まれる支払利息は368,937百万円である。また当期に取得原価に算入した金額は6,691百万円である。

(3) 道路事業固定資産の評価方法

道路事業固定資産の資産種類ごとの取得原価に、それぞれ一定のデフレーターを乗じた調整後の取得価額から、取得後の経過期間に応じた減価償却額を控除した額に基づいて評価している。なお、当該評価により生じた道路事業固定資産の増加額については、「資産再評価差額金」として資本の部に掲記している。

14. 機会費用の計上基準

(1) 国有財産の無償使用に係る機会費用の算出方法

無償貸付を受けている国有普通財産の地積に相続税課税標準価格を乗じて得た土地価格に、「普通財産貸付事務処理要領について」(平成13年3月30日付け財理第1308号財務省理財局通達)に規定されている算定率を乗じて得た賃借価額を計上している。

(2) 政府出資等に係る機会費用の算出方法

政府出資金及び地方公共団体出資金の期末残高に、当連結会計年度末における10年もの長期国債利回りである1.435%を乗じた金額を計上している。

(3) 通常よりも有利な条件による資金調達に係る機会費用の算出方法

国及び地方公共団体からの無利子借入金の期中平均残高に、当連結会計年度における通常の資金調達に係る約定金利の加重平均利率1.301%を乗じた金額を計上している。

(4) 公務員からの出向職員に係る機会費用の対象者数

出向職員に係る退職給付引当金の当期増加額を計上している。(対象者数 40名)

注記事項

(連結貸借対照表関係)

(*1): 道路事業固定資産には補償費 526,022百万円が含まれている。

(*2): 資本の欠損金額は 666,123百万円である。

(連結損益計算書関係)

(*1): その他の営業費用の内訳

| | (単位: 百万円) |
|-----------|-----------|
| 道路資産除却損 | 1,123 |
| 調査費 | 558 |
| 給与 | 4,899 |
| 賞与引当金繰入額 | 433 |
| 退職給付費用 | 724 |
| 貸倒引当金繰入額 | 14 |
| 減価償却費 | 178 |
| その他の一般管理費 | 1,270 |

(連結剰余金計算書関係)

(*1): 資産評価方法の見直し等による調整額の内訳は、次のとおりである。

| | (単位: 百万円) |
|------------|-----------|
| 過年度減価償却額修正 | 11,240 |
| 過年度資産額修正等 | 5,358 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と民間企業仮定連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | (単位: 百万円) |
|----------------------------|-----------|
| 現金及び預金勘定 | 24,849 |
| 有価証券 | 153 |
| 計 | 25,002 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | 560 |
| 取得日から償還期間までの期間が3ヶ月を超える有価証券 | 149 |
| 現金及び現金同等物 | 24,292 |

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当公司及び連結子会社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けている。

2. 退職給付債務に関する事項

(単位: 百万円)

| | 当連結会計年度 (平成16年3月31日) |
|-----------------------|-------------------------|
| イ. 退職給付債務 | 24,668 |
| ロ. 年金資産 | 5,662 |
| ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ) | 19,005 |
| ニ. 未認識数理計算上の差異 | 2,136 |
| ホ. 未認識過去勤務債務 | - |
| ヘ. 退職給付引当金(ハ+ニ+ホ) (注) | 16,868 |

(注) 公団の役員及び嘱託人員については、退職給付の算定にあたり、簡便法を採用している。
また、連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用している。

3. 退職給付費用に関する事項

(単位: 百万円)

| | 当連結会計年度 自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日 |
|----------------------|----------------------------------------|
| イ. 勤務費用 (注)1, 2, 3 | 1,276 |
| ロ. 利息費用 | 542 |
| ハ. 期待運用収益 | 16 |
| ニ. 数理計算上の差異の費用処理額 | 135 |
| ホ. 過去勤務債務の費用処理 | - |
| ヘ. 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ) | 1,937 |

(注)1. 厚生年金基金に対する職員拠出額を控除している。

(注)2. 簡便法を採用している公団の役員及び嘱託人員の退職給付費用は、「イ. 勤務費用」に計上している。

(注)3. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付債務は、「イ. 勤務費用」に計上している。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | 当連結会計年度 自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日 |
|----------------------|----------------------------------------|
| イ. 退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 |
| ロ. 割引率 | 2.00% |
| ハ. 期待運用収益率 | 0.41% |
| ニ. 過去勤務債務の処理年数 | 発生の連結会計年度に一括費用処理 |
| ホ. 数理計算上の差異の処理年数 (注) | 10年(定額法) |

(注) 各連結会計年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしている。